

一般枠

【長野県協議会】

コミュニケーションを促進するための活動補助ロボット
～時代別情報アプリ「その時あなたは」（大正編・昭和編・平成編）～



委員長：大月 肇

プロジェクトコーディネーター ニーズ：中林 美奈子

シーズ：米田 郁夫

1) 協議会の概要

協議会の特性（得意分野や検討フィールド等の特徴）

介護老人保健施設や通所リハビリ、地域包括ケア病棟において、日頃より介護職と関わりを持つ作業療法士が中心となり、現場の意見を吸い上げ、質の高い介護とは？介護職は何を望んでいるのだろうか？を具体化していった。H30年度は、レクリエーション（以下レク）活動に焦点を当て、ロボットを補助的に用いることでの介護の質の向上について検討を重ね、実際のロボットの動きについてシミュレーションまで行った。今年度は、開発販売業者の協力により実際の現場にて参加者の反応把握のための観察と聞き取り調査を行い、レク活動のツールとしてのロボットの活用、製品の提案をしていく。

協議会の目標

- ☑ 介護ロボットなどに関して開発すべきテーマを提案する
- ☑ 高齢者介護の現場での限られたマンパワーを有効に活用する方策を提案する
- ☑ 質の高い介護を実現する方策を提案することを目指す

協議会のメンバー構成（職種・人数）

ニーズ委員 作業療法士 2 名	シーズ委員 人型ロボット開発業者 職員 2名
調査協力 飯山市老人福祉センター 湯の入荘 利用者 職員 ダイコク電機株式会社 榊原 久 平岩浩美	

2) ニーズの明確化：調査・結果考察

ニーズ調査の実施概要（目的、方法、対象、人数）

①レク業務におけるデマンドを聴取し、整理していく中で、ニーズの焦点化を行う。

レク業務に関わる施設職員 20名 （H30年度調査）

②レク活動にロボットを用いることでの参加者の反応把握のための観察と聞き取り

参加者26名 施設職員5名

ニーズ調査のまとめ（調査結果・考察）

①レク活動に対し職員は、重要な介護サービスとして位置づけている。

少人数で行わなければならない現状があり、活動以外の時間がかかったり、活動の進行に関しても負担に感じている。 ⇒ **思いはあっても利用者に十分に寄り添えていない。**

②参加者：ロボットの受け入れは良い・体操・歌唱・ゲームなどの活動も興味を持って参加できていた・話し相手としての利用の要望あり

施設スタッフ：様々な交流場面やレクプログラムの開発には期待している。

⇒ **興味や受け入れは良い、交流を促すアイテムとして利用したい。**

⇒ **交流を促すアプリケーションの開発がカギ**

2)ニーズの明確化：課題分析・解決のイメージ

解決すべき課題

レク活動担当職員の負担軽減

コミュニケーションの促進

課題解決の対象者

施設などを利用する高齢者

レク活動を行う職員（※特に若手や外国出身の職員を対象）

解決した時のあるべき姿・到達目標（わかりやすく具体的に）

- レク活動の流れの中で、その補助的な働きをロボットに行わせることで、スムーズな活動の進行が行え、職員の「利用者に関わる」機会が増える。
- 職員が利用者とコミュニケーションをとる機会が増えることにより、お互いの活動が高まり、満足感のあるレクを体験することができる。

3) 課題解決のための方法 : 課題解決のための機器（新規ロボット等）の概念

ロボット等の概念図（ポンチ絵、解決のフロー図、関連図など）

ナレーション

モニター

昭和30年代の
景色？

音声入力

昭和20年代の
流行歌手？



データベース
検索

ロボット等の概要

職員と利用者を強く結びつけるためにロボットを活用するというコンセプト（隙間を埋める）より、回想療法的に用いるためのアプリケーションの開発に目を向け、参加者は昔を思い出し懐かしみ、特に若手や外国出身の職員への情報提供、また、当事者に直接的にコミュニケーションも図れるものとして、情報には文化・芸能、その地域についての情報などを盛り込む。

利用場面

介護施設などのレク活動の場

期待される導入効果

レク活動を担当する職員の負担軽減と、コミュニケーションの促進

3) 課題解決のための方法 : 課題解決のための機器（新規ロボット等）の具体例

項目	概要
必要な 機能・技術	・ロボットを介して、職員の音声を認識し、情報を検索して映像をモニタに映し出し、映像の解説も付す。
新規ロボット等 導入による 課題解決の 評価方法	①職員に関する評価：参加者に関わる時間 ・回数（声掛け・触れる・顔を見る） ・表情の観察 ・スタッフの満足度 ②参加者に関する評価：自発的な活動の回数 （話しかける・触れる・笑う） ・表情の観察・参加者の満足度
既存/類似機器 との 相違点・優位性	・歌唱の伴奏を流す、体操を促す、ゲームなどは、よくみられるが、回想療法的な使い方は見られない。現在は専用のDVDや写真、音楽CD等が販売されているが、データベース化については確認できない。